# 立正大学博物館年報

## 18

平成 31・令和元（2019）年度

立正大学博物館

# 序

立正大学博物館は、小さな博物館ではあるが、さまざまな博物館資料を所蔵している。

なかでも顕著なのは考古資料であるが、ふだん展示していないものも多く、その代表的なものが埴輪である。出土地不詳で、収集の経緯がわからないなど問題をもっているためであるが、埴輪そのものは確かな資料であり、いつかはまとまった展示の機会をもてればと夢想していた。

それが、令和元年10月30日（水）から12月13日（金）にかけて開催した、第14回企画展「東国の埴輪と埴輪窯」として結実した。地元埼玉県熊谷市はもとより、埼玉県鴻巣市、さらには利根川を隔てた群馬県太田市、栃木県足利市のご協力を得て、おもに埴輪生産に焦点を絞った展示を実現することができた。立正大学博物館が所蔵する資料を、発掘された最新の資料と照合することで、古い資料にスポットを当てることに成功したといえよう。

同展に関連して令和元年12月7日（土）に開催した講演会では、熊谷市教育委員会新井瑞氏の「江南地域の埴輪と埴輪窯」、鴻巣市文化センター山崎武氏の「生出塚埴輪窯跡の生産と広域供給」、埼玉県埋蔵文化財調査事業団大谷徹氏の「東国における埴輪と埴輪窯について」の３本の講演があり、企画展の内容の理解を深めるうえでたいへん役立った。

なお、同展は、令和２年２月12日（水）から品川移動展として、規模を縮小して展示された。

一方、第14回特別展は、「中国古代瓦とアジアの梵音具」と題して、令和２年３月２日（月）から３月30日（月）まで展示された。中国を中心としたアジアの文化に触れることができるまたとない機会となった。瓦は書家の仙場右羊氏、梵音具は梵鐘研究家の眞鍋孝志氏から寄贈されたもので、愛着あるコレクションをご寄贈下さった故人の遺志に深く感謝の意を捧げたい。

立正大学博物館
館長　時枝　務

目次

序 / 目次
Ⅰ. 博物館の概要…… 2
1. 組織と職員
2. 立正大学組織表
3. 立正大学博物館規定
4. 立正大学博物館細則
5. 施　設
Ⅱ. 事業報告…… 8
1. 運営委員会
2. 開館日数・入館者数
3. 出　版
4. 資料活用
5. 展　示
6. 教育普及
7. 調査・研究
8. 所蔵資料の整理
9. 寄贈・寄託資料
Ⅲ. 受贈図書目録…… 24

# Ⅰ．博物館の概要

## 1．組織と職員

### a．職員

館長　　時枝　務

専門職員　　足立佳代

事務アルバイト　　浅見幹雄

### b．運営委員

第１号委員

時枝　務　　（博物館長・文学部教授）

第２号委員

足立佳代　　（専門職員・非常勤嘱託）

第３号委員

清水海隆（社会福祉学部長・社会福祉学部教授）

鈴木厚志（地球環境科学部長・地球環境科学部教授）

第４号委員

木村　浩（産業経営研究所長・経営学部教授）

梅澤啓一（社会福祉研究所長・社会福祉学部教授）

第５号委員

安田治樹（博物館関係学識経験者・仏教学部教授）

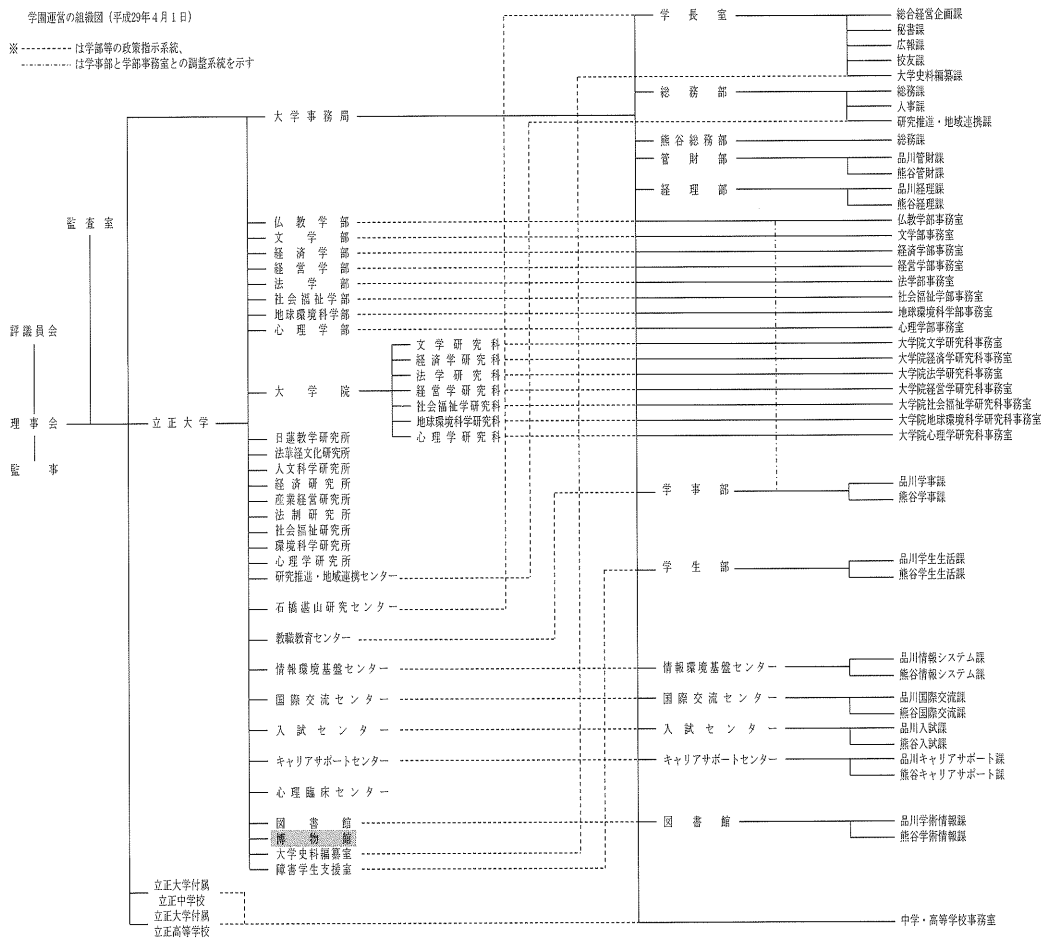
第６号委員

石山秀和（文化史関係学識経験者・文学部准教授）

第７号委員

川野良信（自然史関係学識経験者・地球環境科学部教授）

## 2．立正大学組織表



## ３．立正大学博物館規定

（趣旨）

第１条　立正大学学則第９条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」（以下「博物館」という。）を置く。

（目的）

第２条　博物館は歴史・宗教・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料（以下「資料等」という。）を収集・保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第３条　博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

（１）　資料等の収集、整理および保管

（２）　資料等の展示および公開

（３）　調査研究活動

（４）　調査研究成果の発表および出版

（５）　本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力

（６）　講演会、講習会および特別展示会の開催

（７）　その他必要な事業

（職員）

第４条　博物館に次の職員を置く。

（１）　館長

（２）　専門職員

（館長）

第５条　博物館に館長を置く。

２　館長は博物館を代表し、博物館の業務を統括する。

３　館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。

４　館長の任期は３年とし、再任を妨げない。

５　館長が欠けたときは補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

（専門職員）

第６条　専門職員は第３条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

２　専門職員は館長の推薦を受け、学長が任命する。

３　専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、該当者がいない場合は博物館学芸員に相当するものとする。

４　専門職員の任期は３年とし、再任を妨げない。

（運営委員会）

第７条　博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（委員会・構成）

第８条　委員会は、次の者をもって構成し、学長が委嘱する。

（１）　館長

（２）　専門職員

（３）　学部長から２名

（４）　研究所長から２名

（５）　博物館学芸員関係学識経験者から１名

（６）　考古学および文化史関係学識経験者から１名

（７）　自然誌関係学識経験者から１名

２　館長の推薦により、前項に定める委員のほか、学識経験者若干名を加えることができる。なお、学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

３　委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

（委員の任期）
第９条　前条第１項第３号乃至第６号および第２項の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
２　任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

（委員会の運営）
第10条　委員会は、館長が招集し、議長となる。
２　委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

（委員会の審議事項）
第11条　委員会は、以下の事項について審議する。
（１）　資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
（２）　博物館の管理運営に関する事項
（３）　調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項
（４）　博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項
（５）　博物館の予算・決算に関する事項
（６）　その他必要な事業に関する事項

（細則）
第12条　この規程に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館細則によるものとする。

（規程の改廃）
第13条　本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経て、学長が決定する。
２　前項に規定するもののほか、この規程の改廃の最終決定は、立正大学学園規約類の制定に関する規程第６条の規定による。
附　則
この規程は平成14年４月１日から施行する。
平成28年２月24日改正、平成28年４月１日施行

## ４．立正大学博物館細則

（趣旨）

第１条　この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

（開館日）

第２条　立正大学博物館（以下「博物館」という。）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

（開館時間）

第３条　博物館の開館時間は、午前10時から午後４時までとする。

（入館手続）

第４条　博物館に入館する者は所定の手続をとらなければならない。

２　館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

（入館料）

第５条　博物館の入館料は原則として無料とする。

（入館者の義務）

第６条　入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または減失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

２　入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

（資料等の利用）

第７条　博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作等の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書（様式１）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

２　資料の所蔵者および寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を館内利用許可申請書に添付しなければならない。

３　利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

（１）　利用に際しては博物館の専門職員の指示に従うこと。

（２）　利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。

（３）　利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。

（４）　館長は、第１項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書（様式２）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

（５）　第１項による利用許可を受けた者が、当該資料等を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

（資料等の利用料金）

第８条　前条第３項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

２　館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

（１）　各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業

（２）　博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業

（３）　学術研究

（４）　前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

３　前項の定めにより利用料金を全額免除され

た者は、利用により生じた著作物１部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第９条　資料等の貸出を受けようとする者は館外貸出許可申請書（様式３）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

２　館長は前項の館外貸出許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書（様式４）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。

３　館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。

４　第１項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

第10条　前条第２項による許可を受けた者は、別に定める料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。

２　前項の定めにかかわらず、第８条第２項第１号、第２号および第４号のいずれかに該当する場合は料金を全額免除する。

３　前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を１部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条　資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書（様式５）寄託申込書（様式６）に記入のうえ、館長に提出するものとする。

２　館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。

３　館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して当該資料の受領証（様式７）・受託証（様式８）を交付するものとする。

４　館長は寄託を受けた資料等について十分な注意をもって保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条　本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附　則

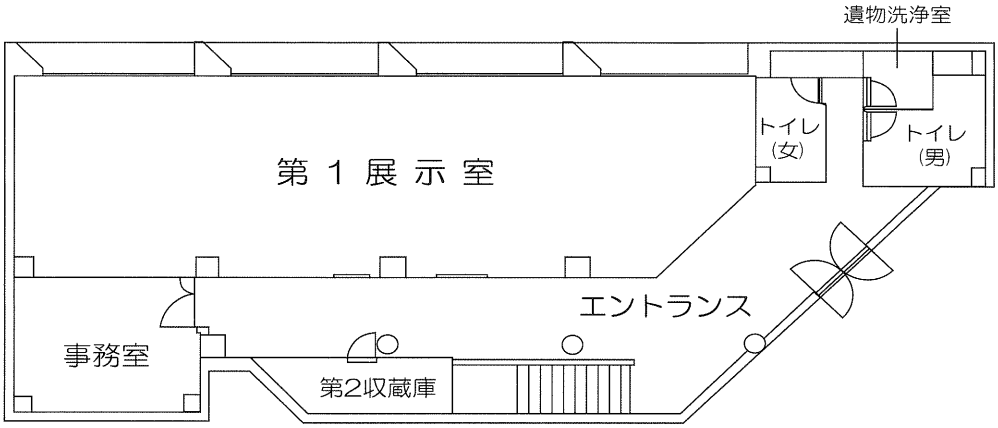
１　この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。

２　この細則は平成14年４月１日から施行する。この細則は平成15年４月１日から施行する。

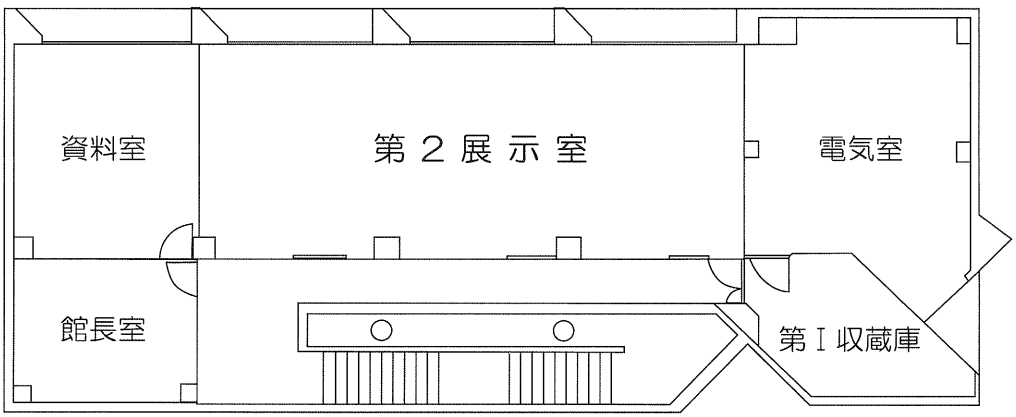
(申請書様式一覧)

様式１：館内利用許可申請書
様式２：館内利用許可書
様式３：館外貸出許可申請書
様式４：館外貸出許可書
様式５：博物館資料寄贈申請書
様式６：博物館資料寄託申請書
様式７：博物館資料受領証
様式８：博物館資料受託証
様式９：博物館資料借用書

## 5．施　設




1階　平面図




2階　平面図

●建物
所 在 地・・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
建築面積・・・・376.8㎡
構　　造・・・・鉄筋コンクリート造　２階建

●各室面積一覧
（１階）
第１展示室　・・・・93.88㎡
事　務　室　・・・・17.10㎡
第２収蔵庫　・・・・3.22㎡
ト　イ　レ　・・・・11.01㎡
遺物洗浄室　・・・・2.26㎡
エントランス・・・・45.64㎡

（２階）
第２展示室・・・・71.22㎡
館　長　室・・・・16.98㎡
資　料　室・・・・23.89㎡
第１収蔵庫・・・・12.30㎡
電　気　室・・・・39.00㎡

●各室仕様
（第１展示室・事務室）
床　・・・・タイルカーペット敷
壁　・・・・ビニールクロス貼り
天井・・・・ミネラートン

（第２展示室）
床　・・・・タイルカーペット敷
壁　・・・・ビニールクロス貼り
天井・・・・ミネラートン

（館長室・資料室）
床　・・・・タイルカーペット敷
壁　・・・・ビニールクロス貼り
天井・・・・ジプトーン

●電気設備
受電設備・・・・・6.6KV
変圧器設備・・・・電灯－ 100KVA 動力－ 80KVA
照明設備・・・・・展示室－ハロゲンランプ使用
館長室・事務室・資料室－蛍光灯使用

●防犯・防災設備
防犯設備・・・・各室熱センサー取付、非常通報設備
ITV 設備・・・・CCD カメラ４台、展示室等監視
自動火災報知設備・・・・P 型１級５回線
消化設備・・・・粉末消火器９台

●空調設備
空調機・・・・空冷式、パッケージエアコン（個別）

●給排水設備
給水設備・・・・市水道使用
給湯設備・・・・貯湯式電気湯沸器

## Ⅱ．事業報告

### 1．運営委員会

平成31・令和元年度は、定例の運営委員会及び臨時運営委員会を開催した。

（1）運営委員会（定例）

・日　時：令和元年6月3日（月）
12時20分～13時

・会　場：品川キャンパス　第8会議室
熊谷キャンパス　第2会議室

・出席委員：時枝務・清水海隆・鈴木厚志・木村浩・梅澤啓一・石山秀和・川野良信・足立佳代

議　事

Ⅰ．報告事項

1．令和元年度博物館運営委員について

2．平成30年度博物館事業報告及び決算報告について

3．その他

Ⅱ．審議事項

1．令和元年度事業計画について

2．令和元年度予算について

3．その他

・人件費・兼務職員（雑給）予算が昨年度より増加していることについて質問があった。

(回答)

現在、博物館職員が1人体制で人手が足りないため、アルバイトで補う旨説明した。

・審議事項については異議なく承認された。

・その他について、懸案であった看板の設置について質問があった。設置の方向で動いているが、予算がつかず進んでいない旨報告した。

・博物館所蔵資料の調査等についてどのような状態か、質問があり、次のように回答した。

(回答)

所蔵資料の調査・整理は博物館の重要な仕事であるが、人材の確保ができず進んでいない。

（2）臨時運営委員会

・日　時：令和元年7月18日（木）
午前9時30分～10時30分

・会　場：品川キャンパス　第1会議室
熊谷キャンパス　第4会議室

・出席者：須田知樹副学長、栗田学長室部長
（委員）時枝務・清水海隆・鈴木厚志・梅澤啓一・安田治樹・石山秀和・足立佳代

議　事

Ⅰ．立正ミュージアムの開設について

・須田副学長より以下のような説明があった。現在建設中の11号館の地下4階に博物館を開設する計画があり、博物館としての運用を図る上で、現在の博物館との関わりもあるため、博物館運営委員会で諮ったうえで設立準備委員会を設置したい。

・開設までには課題があるが、ミュージアム準備委員会を立ち上げることを承認いただいた。

・今後、課題の詳細については、準備委員会が立ち上がってからのご指導をお願いした。

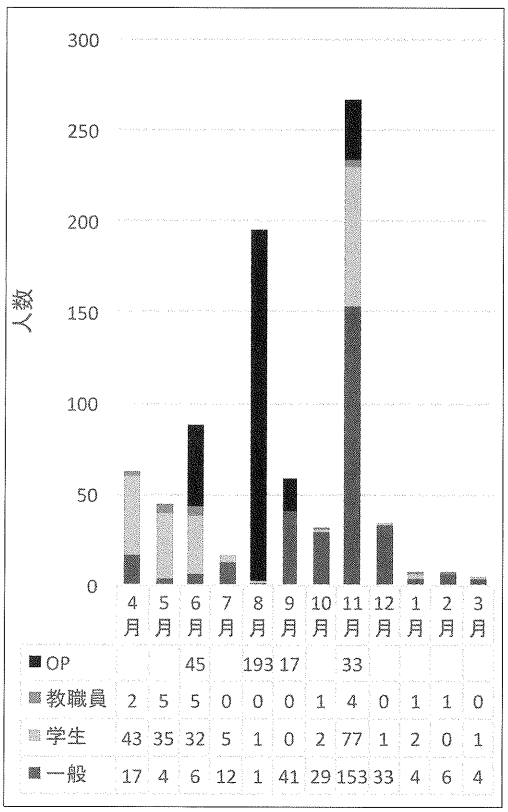
## 2．開館日数・入館者数

今年度は職員の勤務体制により、前期は原則として月・水・木の週3日、後期は月・水・木・金週4日の開館日となった。平成31年4月1日から令和2年3月30日までの開館日数は、154日、入館者数は、816名でそのうち本学学生が199名、教職員19名、一般が598名であった。

オープンキャンパスでの入館者は、6月16日（日）39名、8月4日（日）117名、8月18日（日）76名、9月8日（日）17名、11月2日（土）33名で、合計494名であった。

企画展の入館者は合計300名であった。

2、3月は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、入館者が減少した。




平成31年度・令和元年度　入館者数

## 3．出　版

平成31・令和元年度は、以下の出版物を刊行した。

・『立正大学博物館年報』17号　平成30（2018）年度

・館報　万吉だより　29号・30号

・第14回企画展図録『東国の埴輪と埴輪窯』

・第14回特別展図録『古代中国瓦とアジアの梵音具－仙場右羊コレクションと撫石庵コレクション』

・品川キャンパス展示（令和元年度春季展示）パンフレット『仙場右羊コレクション　中国古代瓦展』

B5判　20頁

B5判　24頁

## 4．資料活用

### （1）館外利用

当館の所蔵資料を以下の博物館等に貸し出した。

◆資料展示

①港区立郷土歴史館

・貸出資料：人物埴輪頭部（伝芝丸山古墳出土）
　　礫石経（徳川家重墓出土）

・貸出期間：令和元年7月20日（土）～9月25日（水）

・利用目的：特別展「港区と考古学–未来へ続く、遺跡からのメッセージ–」（会期：7月20日～9月23日）において展示するため。港区内出土の資料が展示された。

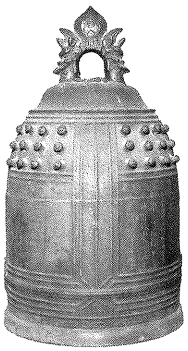
伝芝丸山古墳出土埴輪

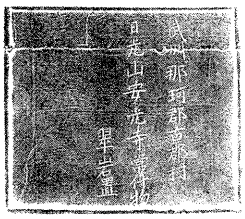
②埼玉県埋蔵文化財調査事業団文化財収蔵施設

・貸出資料：「安光寺」銘　半鐘（撫石庵コレクション）

・展示期間：11 月 7 日（木）～ 11 月 28 日（木）

・利用目的：11 月 14 日前後に実施される埼玉県民の日「まいぶんフェスタ」に展示するため。この半鐘には、「武州那珂郡古郡村 / 日光山安光寺常什物」という銘文があり、埼玉県ゆかりの文化財ということで、展示された。





「安光寺」銘　半鐘

◆写真提供

①六一書房

・貸出資料：称名寺貝塚出土の骨角器（吉田コレクション）の写真

・利用目的：『考古学の地平 II　縄文時代中期の土器論と生業研究の新視点』（著者　山本典幸　考古学の地平グループ　編）の表紙に掲載するため。

・刊 行 日：2019 年 5 月

②テレビマンユニオン

・貸出資料：四枚畑貝塚の集合写真（吉田コレクション）

・利用目的：「反骨の考古学者 ROKUJI」にて八幡一郎を紹介し、放映するため。

・放　　映：NHKBS4K　8 月 11 日（日）、18 日（日）

③板橋区立博物館

・貸出資料：四枚畑貝塚の集合写真

・利用目的：常設展への展示及び常設展示図録へ掲載するため。

（2）館内利用

当館にて所蔵資料の調査・研究、実習等の利用に供した。下記団体のほか、個人 2 件の利用があった。

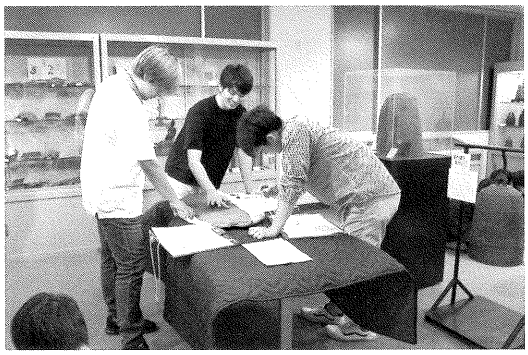
①地球環境科学部環境システム科の実習

・貸出資料：板碑

・日　　時：6 月 26 日（水）

・参 加 者：実習生 28 名

・内　　容：武蔵型板碑は、秩父地方から産出する岩石である緑泥片岩を加工した中世の供養塔である。実習生たちは、下岡順直先生の指導のもと、岩石としての特徴等を理解するため、板碑を観察・スケッチした。



実習風景

②古代の入間を考える会による資料調査

・貸出資料：八坂前窯跡出土資料

・日　時：2 月 27 日（木）

・参加者：古代の入間を考える会会員　4 名

・内　容：基礎資料の集成のため、須恵器・坏の計測、瓦の熟覧等をした。

調査の様子

## 5．展　示

### （1）常設展示

①第1展示室（1F）

眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈された撫石庵コレクション及び立正大学考古学研究室が1958年～1980年にかけて文部省（現文部科学省）の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示している。

撫石庵コレクションは、アジアの梵音具を中心とした資料で、とくに伝橿原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るもので、極めて貴重な資料である。その後この伝橿原市出土鐘を復元した鐘が寄贈された。実際に撞いて音を聴くことができる資料である。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では熊谷市所在野原古墳群の出土資料、伝芝丸山古墳出土人物埴輪（頭部）等を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器等を展示しているほか、平成27年に寄贈された仙場右羊コレクションの一部である中国古代瓦を展示している。

エントランスでは、撫石庵コレクションの日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵鐘や熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、文化財保護法によって定められた遺跡の発掘調査で出土した資料を展示している。

また、天正8（1580）年創立の飯高壇林に淵源が求められる立正大学の歴史をパネルで紹介している。

撫石庵コレクション

「古代窯業の考古学的研究」資料

白滝遺跡・石神貝塚・野原古墳群等

エントランス展示

②第 2 展示室（2F）

吉田格コレクション、樺太出土資料、海外発掘調査資料を展示している。

吉田格コレクションは、吉田格氏（立正大学専門部地歴科・昭和 16(1941) 年卒・平成 18 年没）寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は『日本産物誌』明治 9（1876）年に収められているものであり、嘉永 5（1852）年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴氏（元本学名誉教授）寄贈のコレクションで、同氏が 1930 年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

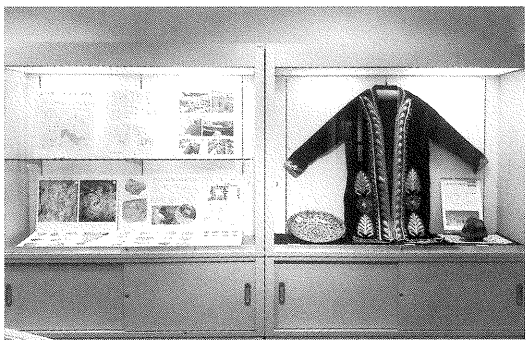
海外発掘調査資料は、1967 年～ 1977 年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘されたティラウラコット遺跡の出土資料群であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城－カピラ城跡の有力な比定遺跡として注目されている。

また、立正大学では、平成 26（2014）年からウズベキスタン学術調査隊を派遣し、仏教遺跡カラ・テペ、仏塔ズルマラ周辺の発掘調査を行っている。その調査成果の一部とウズベキスタン共和国との交流の物産を展示している。

吉田コレクション：称名寺貝塚資料

海外調査：ティラウラコット遺跡調査資料

吉田コレクション：伊藤圭介資料



海外調査：ウズベキスタン調査資料

（2）企画展示

◆第 14 回企画展「東国の埴輪と埴輪窯」

・会　期：令和元年 10 月 30 日（水）～ 12 月 13 日（金）

・主な展示資料：

踊る埴輪・複製（野原古墳・熊谷市教育委員会）

人物埴輪頭部（伝芝丸山古墳・立正大学博物館）

人物埴輪頭部（生出塚 3 号墳・鴻巣市教育委員会）

円筒埴輪（伝下沼部埴輪窯跡・立正大学博物館）

鹿形埴輪（姥ヶ沢埴輪窯跡群・熊谷市教育委員会）

盾持人埴輪（権現坂埴輪窯跡群・熊谷市教育委員会）

靫形埴輪（駒形神社埴輪窯跡・太田市教育委員会）

靫形埴輪（機神山山頂古墳・足利市教育委員会）

藪塚出土埴輪片（立正大学博物館：吉田コレクション）

形象埴輪片（田中古墳群・立正大学考古学研究室）

機神山 26 号墳出土埴輪片（立正大学考古学研究会）

・内　容：博物館の人気者である「埴輪」をテーマとした。特に「踊る埴輪」は誰もが知るキャラクターとして親しまれているが、この「踊る埴輪」が熊谷市江南地域の野原古墳（野原古墳群中の前方後円墳）から出土したことを知る人は多くはない。

野原古墳群は、立正大学博物館が所在する熊谷キャンパスの南西にあり、立正大学考古学研究室ではこの古墳群を昭和 39（1964）年に発掘調査している。「踊る埴輪」を製作したと推定される権現坂埴輪窯跡群は江南地域に位置する。

昭和 20 年代に開設されていた「歴史参考品室」に所蔵されていた埴輪は現在当館に引き継がれている。人物埴輪の頭部は東京都港区の芝丸山古墳から出土したと伝えられ、その製作地は埼玉県鴻巣市の生出塚埴輪窯跡と推定されている。

本展示では、当館所蔵の埴輪とともに、埴輪の生産地である埴輪窯の資料や関連する埴輪を展示し、埴輪の生産と供給について最新の研究成果をもとに紹介した。

◆関連事業

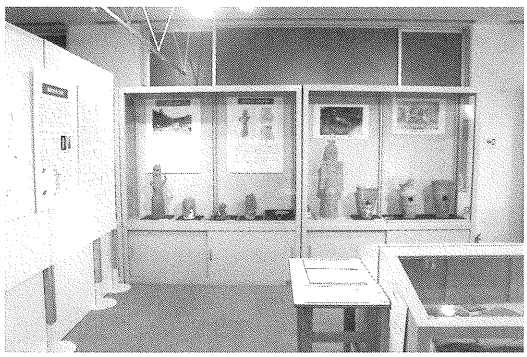
①埼玉県民の日　三館連携事業

・日　時：11 月 14 日（木）施設の開館時間

・会　場：埼玉県埋蔵文化財調査事業団
　　熊谷市江南文化財センター
　　立正大学博物館

・内　容：各施設で特別展示や火おこし体験、勾玉づくり等を開催した。当館では、拓本体験を担当した。

企画展ポスター



企画展　展示状況

②記念講演会

・日　時：12 月 7 日（土）午後 1 時～

・会　場：立正大学熊谷キャンパス

　　ゲートプラザ　1202 教室

・参加者：25 名

・内　容：講演及びミニ討論会

「江南地域の埴輪と埴輪窯」新井　端 氏（熊谷市教育委員会）

「生出塚埴輪窯跡の生産と広域供給」山崎　武 氏（鴻巣市文化センター）

「東国における埴輪と埴輪窯について」大谷　徹 氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

○「江南地域の埴輪と埴輪窯」

熊谷市江南地区には姥ヶ沢埴輪窯跡、権現坂埴輪窯跡というふたつの埴輪窯跡が知られている。新井氏は、長年にわたって熊谷市及び旧江南村の埋蔵文化財の発掘調査に携わり、このふたつの窯跡の調査手がけている。

調査当時の貴重な写真や出土品を示しながら、窯跡の構造や出土した埴輪が立てられた古墳についてわかりやすく解説していただいた。

○「生出塚埴輪窯跡の生産と広域供給」

鴻巣市の生出塚埴輪窯跡は、東国最大級の埴輪生産遺跡として知られている。山崎氏は、鴻巣市教育委員会職員（当時）として発掘調査に携わり、調査、研究を続けられている。

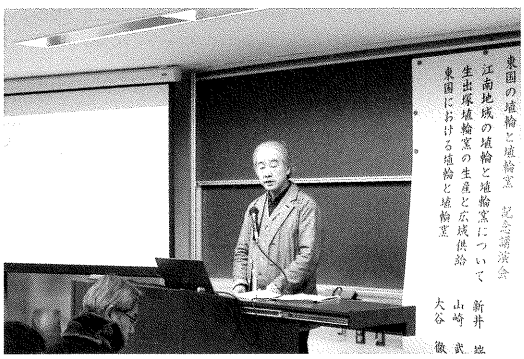
生出塚埴輪窯跡から出土した埴輪がどこの古墳に立てられ、どのように運ばれたかを論じていただいた。千葉県市原市や東京都港区など遠く東京湾沿岸の古墳に立てられた埴輪は、荒川などの河川を利用して運ばれたと考えられている。

○「東国における埴輪と埴輪窯について」

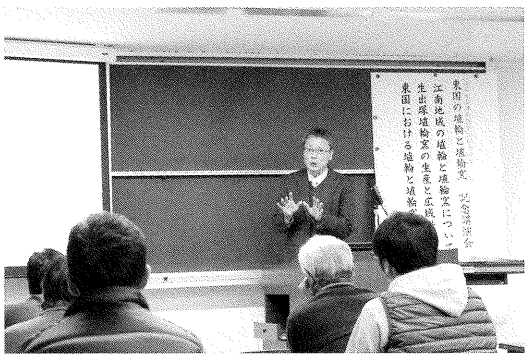
大谷氏は、埼玉県内の発掘調査に携わりながら、長年にわたって古墳・埴輪の研究を続けられている。また、立正大学 OB として当館の活動にも協力いただいている。

講演では、埴輪の成立・変遷から始まり、全国的な視野で埴輪の生産体制等を解説、東国で確認されている埴輪窯跡と古墳出土の資料を示しながら、埴輪の同工品論や胎土分析など最新の研究成果を論じていただいた。

参加者の方々は、熱心に耳を傾けられ、その後のミニ討論会では、会場からいくつもの質問や意見があり、活発な議論となった。講演会終了後は、博物館の開館時間を 17 時まで延長し、参加者の多くの方々が展示を参観された。

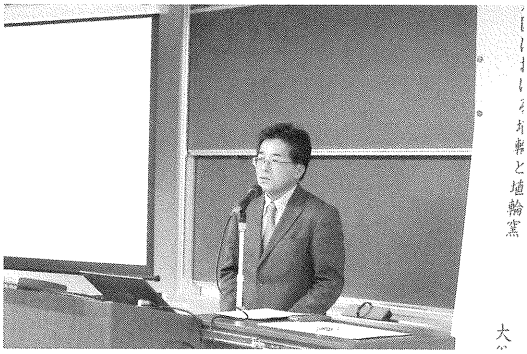



新井氏の講演の様子




山崎氏の講演の様子

参加者の様子



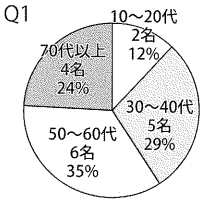
大谷氏の講演の様子

**【講演会アンケート結果】**

Q1　あなた様の年齢をお伺いします。

1. 10 ～ 20 代　2. 30 ～ 40 代

3. 50 ～ 60 代　4. 70 代以上




Q2　上の質問で、1 に丸をつけた方にお伺いします。学生ですか？

1. 本学学生　2. 他大学学生（　　）

3. その他

Q3　どちらからお越しになりましたか？

1. 埼玉県内

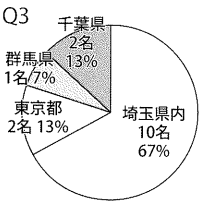
①熊谷市②その他の市町村

2. 埼玉県外

①東京都②群馬県③栃木県

④茨城県⑤千葉県

⑥神奈川県⑦その他



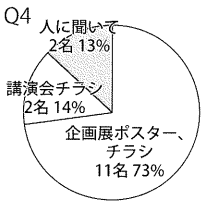

Q4　この講演会は何で知りましたか？

1. 企画展のポスター、チラシ（カラー）

2. 博物館ホームページ

3. 講演会チラシ（緑の紙）

4. 人に聞いて




Q5　講演会はわかりやすかったですか？

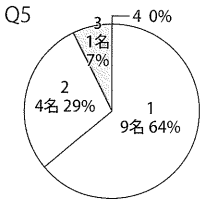
1. わかりやすく、理解できた

2. わかりやすかったが、内容はやや難しかった

3. わかりにくく、理解できなかった

4. 内容が難しすぎた

5. その他




Q6 講演会・企画展についてのご意見、ご感想をご記入ください。

（回答）

・東国の埴輪と埴輪窯については、生出塚は知っていましたが、ほかの埴輪窯を知ることができました。これからは、埴輪に興味を持っていきたいと思います。関東にもたくさんの埴輪窯があることも知ることができ、よいお話を聞くことができました。講師の先生方のお話もわかりやすく聞くことができました。もっと先生方のお話を聞きたいと思いました。今日はありがとうございました。

・スライドで写真等を多用してくださったので、とても理解しやすかった。

・要所を押さえた資料配布は理解に役立つ。

・ありがとうございました。

（3）特別展示

◆第14回特別展「中国古代瓦とアジアの梵音具―仙場右羊コレクションと撫石庵コレクション―」

・会　期:令和2年3月2日(月)～3月30日(月)

・主な展示資料

○仙場右羊コレクションから

饕餮(とうてつ)紋半瓦当（燕：紀元前1100年頃～紀元前222年）

樹紋半瓦当（斉：紀元前1046年頃～紀元前386年）

四鹿紋円瓦当(秦:紀元前778年～紀元前206年)

千秋萬歳紋円瓦当（漢:紀元前206年～220年）

○撫石庵コレクションから

伝橿原市出土鐘（日本：奈良～平安前期）

中国鐘（甬鐘）（中国：春秋戦国時代以降）

金鼓（高麗：「貞祐陸（1218）年」銘）

銅鼓（タイ）

半鐘（日本：江戸時代　寛延元年）

・内　容：平成27年に著名な書道家であった仙場右羊氏から中国の古代瓦を中心とした200点以上の文物が寄贈された。仙場氏は、中国との国交が回復した昭和40年代以降40回以上にわたって訪中され、古い書体で表現された漢字を文様とする古瓦を蒐集されてこられた。当館では、資料を整理し、昨年度『館蔵資料「基礎文献」叢刊　第8輯仙場右羊コレクション中国考古資料図録』を刊行した。

寄贈資料の中心である中国古代瓦は、春秋戦国時代の燕、斉の半瓦当、秦、漢の円瓦当が主体となっている。

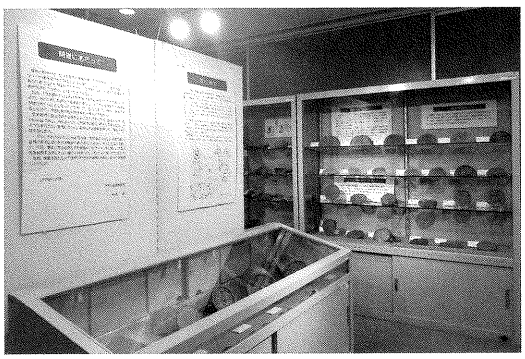
燕の半瓦当は、饕餮紋などを瓦当一面に配し、ダイナミックな印象を受ける。斉の半瓦当は、中央から左右に対象に樹紋や馬、鳥紋等を配し、繊細な印象である。

秦では円瓦当が主体となり、その瓦当文は、躍動感のある鳥獣紋が特徴である。統一秦の時代には、瓦当面を4分割して曲線が渦を巻く雲紋と蕨手が二重に旋回する葵紋が主体となる。

漢では瓦当紋に漢字を用いるようになる。その語句は、めでたい言葉を配した吉祥句類、宮殿類、役所の建物などを示す官署類、墓に伴う廟や堂を示す祠堂類等がみられる。様々な書体や配置となっている。

立正大学博物館の中核をなす所蔵品の一つに、撫石庵コレクションがある。これは、眞鍋孝志氏（元日本古鐘研究会会長）が長年にわたって蒐集された梵鐘を中心としたコレクションで、日本の梵鐘をはじめとして、中国・朝鮮・タイ・ベトナム・ミャンマーなど世界各国の鐘、鉦鼓、銅鼓、小金銅仏などがある。眞鍋氏により、平成12年・13年に立正大学学園に寄贈され、平成14年博物館開館により博物館に移管され、一部常設展示している。

本展示は、蒐集されたコレクションを調査・研究に役立てたいとの真鍋氏、仙場氏のご意志に沿うよう、展示し、中国を中心としたアジアの考古、仏教世界を紹介した。



特別展　展示状況

（4）品川キャンパス展示

◆「仙場右羊コレクション中国古代瓦展」

・会　期：令和元年5月31日（金）～令和2年2月6日（木）

・主な展示資料：燕や斉の半瓦当が5点、秦・漢の円瓦当が11点

・内　容：品川キャンパス9号館エントランスにて「仙場右羊コレクション中国古代瓦展」を開催した。開催に際してはパンフレットを作製し、配布した。

仙場右羊コレクションは、平成27年に寄贈され、当館で整理し図録刊行後、初めての公開となった。

◆第14回企画展　移動展「東国の埴輪と埴輪窯」

・会　期：令和2年2月12日（水）～

・主な展示資料：

伝下沼部埴輪製作址出土円筒埴輪

吉田コレクション「ヤブ塚古墳」出土埴輪片

出土地不明朝顔形埴輪

・内　容：第14回企画展で展示した当館所蔵の埴輪の紹介と、パネルにより「埴輪とはなにか」、「埴輪の生産と供給」、「熊谷市江南台地の古墳と埴輪」を解説した。

## 6．教育普及

（1）博物館館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のための館務実習生を受け入れた。実習生は文学部7名、仏教学部4名の計11名であった。

以下の日程で、延べ6日間実習を行った。

◆前期：8月4日（日）～6日（火）

・8月4日（日）

館長によるあいさつ・心構え　　時枝務館長

実習ガイダンス及び博物館の概要

足立佳代学芸員

古文書に関する講義と実習

講師：石山秀和氏（文学部史学科准教授）

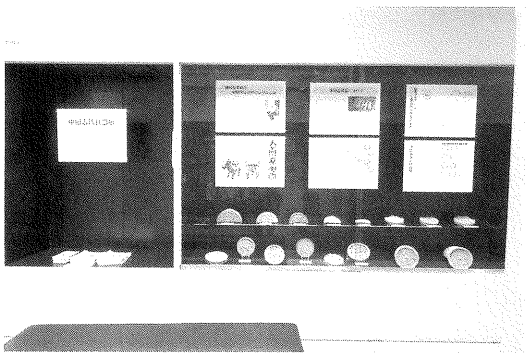
資料としての古文書の特徴や取り扱い方等の講義、実際の古文書を用いて古文書調査カードの作成を行った。

・8月5日（月）

考古資料に関する講義と実習

講師：紺野英二氏（文学部博物館学芸員養成課程特任講師）

立正大学博物館に所蔵されている資料について、考古資料の特徴と取り扱い方の講義及び立正大学博物館所蔵の須恵器の調査カードを作成し、須恵器底部の拓本を採った。



品川キャンパス展示状況

令和元年度実習生

・8月6日（火）
自然誌に関する講義と実習
講師：北沢俊幸氏（地球環境科学部環境システム科准教授）
　資料としての砂の特性や災害と砂についての講義及び砂の観察、標本作成等の実習を行った。

◆後期：9月3日（火）～9月5日（木）
・9月3日（火）
刀剣の取扱いに関する講義と実習
講師：田鴎和久氏（文学部社会学科准教授）
　模造刀を使って取扱い方や手入れの実習を行った。

・9月4日（水）
文化史に関する講義と資料梱包実習
講師：井上尚明氏（立正大学非常勤講師）
　考古資料についての講義と、資料の梱包の実習では、博物館の展示品である須恵器を自分たちで作製した梱包材を用いて梱包した。

・9月5日（木）
博物館の展示と資料整理に関する実習
講師：池田奈緒子氏（元立正大学博物館学芸員）
　坂詰秀一名誉教授が当館に寄贈された絵馬の取扱い方と調査カードの作成を行った。

（2）土器焼き実習
　11月3日、4日の2日間にわたり、竹花宏之先生による考古学実習・土器焼き実習が実施された。1日目は、焼成坑の掘削、たきぎ拾い、マキ割り等準備を行った。2日目は、乾燥した土器を焼成坑に入れ、マキをくべながら、焼成した。実習生5人と立正大学考古学研究会の有志5人が参加した。

実習：砂の観察の様子

令和元年度実習生

実習：考古資料の梱包の様子

土器焼成状況

## ７．調査・研究

吉田コレクション

貝取貝塚の出土遺物について

鎌倉市教育委員会[1]

鈴木　弘太

### はじめに

ここで紹介するのは吉田格コレクションの内、岩手県一関市花泉町に所在する貝鳥貝塚の出土品10点と、貝鳥貝塚に隣接する白浜貝塚の出土品2点です。

一関市博物館では、平成31年1月26日から3月24日まで、展覧会「縄文人のセンス―貝鳥貝塚の出土品―」を開催いたしました。その事前調査で、立正大学博物館が所蔵する吉田格コレクションの資料調査を実施し、さらには、これらの出土品をお借りし、展覧会へ出品させていただいています。ここで紹介する出土品は、すなわち展覧会への出品ということになります（一関市博物館 2019）。

ところで遺跡名称は、吉田格コレクションでは「貝取貝塚」、展覧会では「貝鳥貝塚」の漢字を当てています。この遺跡は、他にも「油島貝塚」や「蝦島貝塚」などと呼ばれたりしますが、昭和41年の岩手県の史跡の指定名称が「貝鳥貝塚」となったことから、現在は「貝鳥貝塚」が一般的です。

### １．貝鳥貝塚の位置と概要

貝鳥貝塚は一関市花泉町に所在します。北西側から延びる丘陵の端部に位置し、海抜は15～20ｍ程度、周辺の水田との標高差は5～10ｍほどあります。遺跡の南側には北上川の支流である迫川が流れ、北側には磯田川があり、この迫川に合流します。貝鳥貝塚は、丘陵南側斜面に位置し、丘陵脇は小河川に囲まれる絶好のロケーションと言えるでしょう。

図１は縄文海進期の貝鳥貝塚周辺の汀線の復

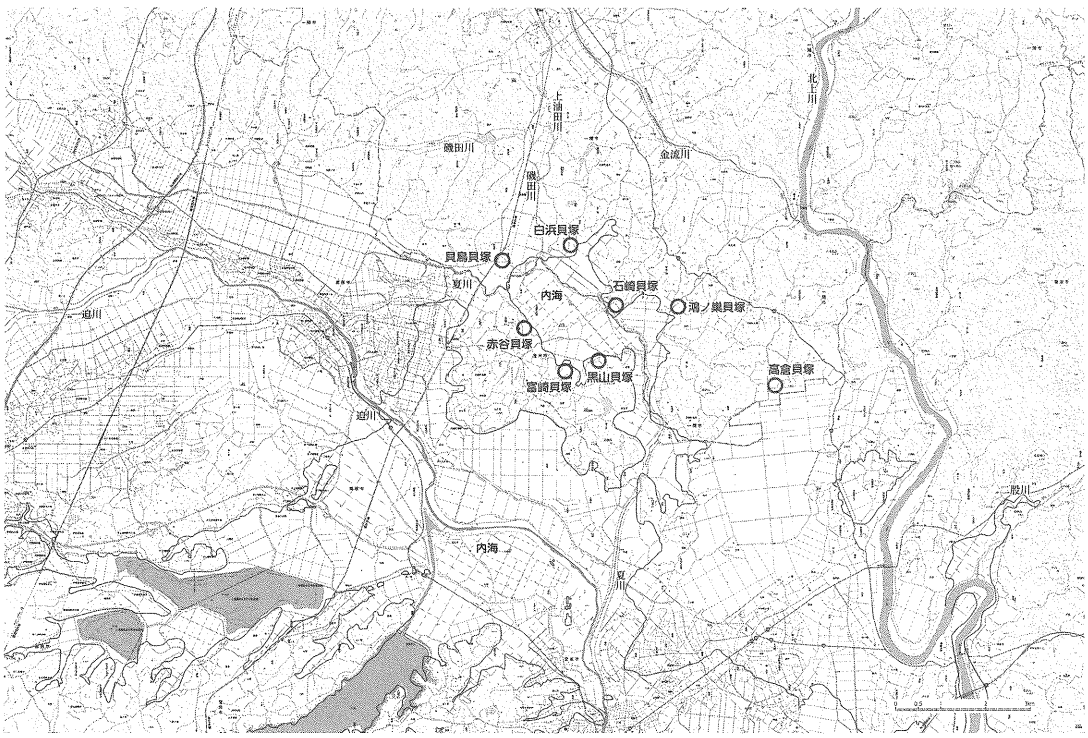



図１　貝鳥貝塚及び周辺貝塚と縄文時代の汀線復元図

原図です。縄文海進期には、約5m海抜が上昇していたといわれていますが（松島 2012）、さらに3mほど足して、現在の海抜から8mほど海抜を上昇させた図です[2]。足した分の3mは、地盤沈降があったものと推測されます。この汀線復原図からは、現在の石巻湾から北上川に沿うように大きく内海が入り込んでいたことがわかります。その内海は潟を形成し、周囲には縄文集落が営まれ、貝塚が形成されました。本稿で紹介する貝鳥貝塚や白浜貝塚もその一つです（熊谷 2007）。

貝鳥貝塚は、昭和30年代から40年代を中心に発掘調査が行われ、現在では岩手県の指定史跡となっています。昭和30年代の調査では、岩手大学や東京大学人類学教室が主体となり発掘調査が行われ、60体を超える縄文時代後晩期の人骨が発見され、特に人類学方面から注目を集めました。出土した縄文人骨の大部分は現在、国立科学博物館に収蔵されていますが、地元の満昌寺にも良好な状態の縄文人骨一体が納められています[3]。

これまでの調査成果により貝鳥貝塚は、縄文中期中葉頃から貝層が形成されはじめ、後期には規模を拡大し、その後縮小しながらも晩期まで存続することが確認されています。貝層の範囲は東西約60m、南北約20m、遺物包含層は厚いところでは2mにも達し、内陸部に所在する貝塚としては国内最大級の貝塚であることが判明しています。

白浜貝塚は本格的な調査は実施されていませんが、岩手県教育委員会が実施した試掘調査では、縄文時代後期前葉から弥生時代の貝塚とされ、貝鳥貝塚と同時期に機能していたと考えられています（岩手県教育委員会 1998）。

## 2．吉田格コレクション収集の経緯と内容

岩手県の史蹟名勝天然記念物調査会の一員であった小田島禄郎氏が、大正14年に白浜貝塚を、昭和4年に貝鳥貝塚を踏査しています。これがはじめての学術調査です。

そして、昭和15年7月に江坂輝弥と吉田格の両氏は、貝鳥貝塚の踏査を実施し、その後、昭和22年10月に両氏によって、はじめて貝鳥貝塚の発掘調査が実施されました。僅か二日間の小発掘ですが、その後の本格的な調査の礎となる貴重な調査です。

この時の資料が、10点の貝鳥貝塚出土品で、内訳は、復原土器1点、土器片8点、骨角器1点です（写真1）。1は、縄文時代晩期（大洞A´式）の深鉢形土器（高41cm）です。その後の貝鳥貝塚調査では、晩期の遺物は少量であるため、貴重な成果です。2～9は小片のため、詳細は未詳ですが、2、3は深鉢形土器、4～9は縄文時代晩期の浅鉢形土器と考えられます。浅鉢形土器は丁寧な磨きがなされており、口縁部下の沈線は工字文と考えられ、1と同時期のものと推測されます。10は猛禽類（ワシ・タカ類）の趾骨を加工した垂飾品（長3.6cm）で、採集資料です。同様のものは、昭和31年度調査でも出土しています。

写真2は白浜貝塚の資料で、吉田氏が地元の方から譲られたものです。1は土製耳飾りで、直径4.3cm、厚3cm、重量76gでズッシリとしています。表面には刺突文と円形文が環状に三重に施されています。2は鹿角製臼形弭で、いわゆる「浮き袋の口」です。長2.4cm、最大径1.5cmで表面に丹塗が施されています。実測図は『吉田格コレクション　考古資料図録』から転載しました（立正大学文学部考古学研究室 1990）。

## おわりに

本稿では吉田格先生が調査された貝鳥貝塚及び白浜貝塚の資料について紹介させていただきました。特に貝鳥貝塚の資料は、初めて発掘調査のメスが入れられた記念すべき調査資料であ

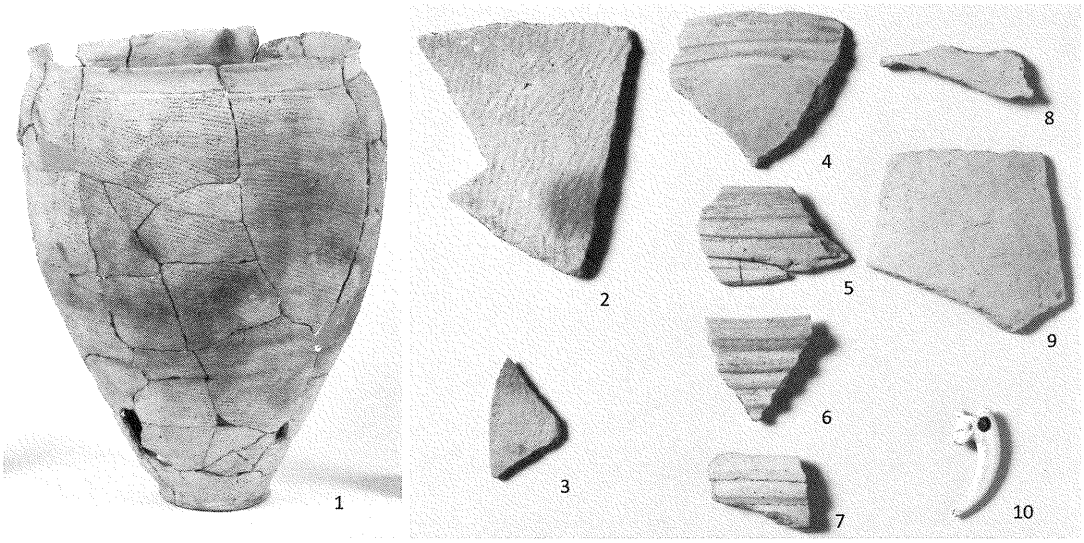



写真１　貝鳥貝塚出土遺物

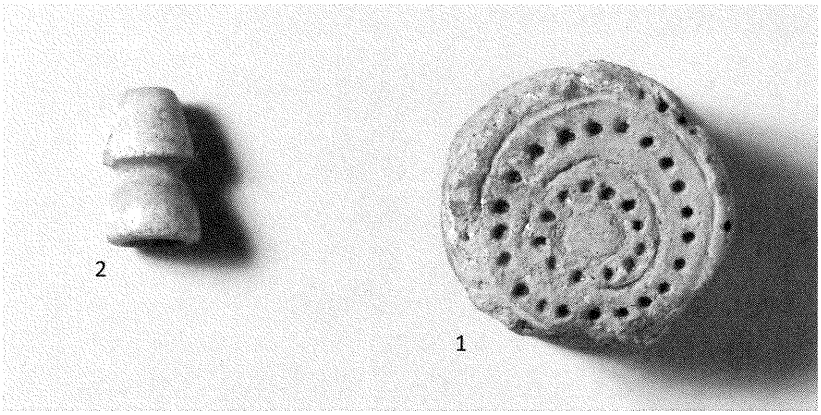



写真２　白浜貝塚出土遺物

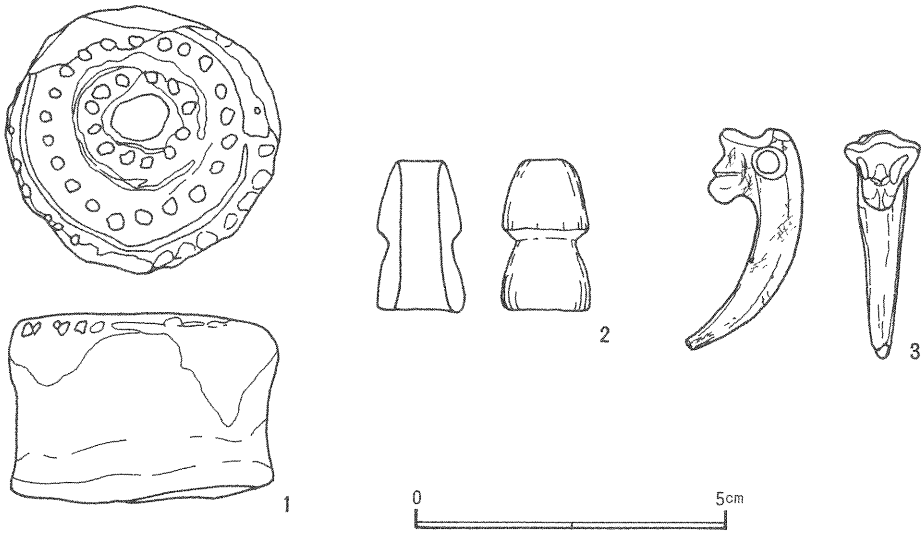



図２　実測図（1,2 白浜貝塚、3 貝鳥貝塚）

り、本稿及び展覧会で紹介することができたのは、うれしい限りです。ただ、借り受けてから展覧会開幕まで、常に展覧会準備に追われ、実測図や拓本を掲載することができなかったことは心残りです。

展覧会及び本稿の執筆にあたっては、立正大学博物館の時枝務館長及び吉水美紗登専門員には大変お世話になりました。また盛岡大学文学部長　熊谷常正教授には、日頃よりご指導いただいています。記して感謝申し上げます。

註

1　本稿執筆当時は一関博物館勤務

2 『改訂新版カシミール３Ｄパーフェクトマスター編』（杉本智彦 2012　実業之日本社）を用いて編集しています。なお、汀線復原図は、現行（圃場整備後）の地形図を用いて作成しているため、当時はより微地形に起伏があったものと想定されます。

3 この満昌寺に保管されている人骨については、令和元年度に調査が実施されました。推定身長 150.9cm の熟年女性で、抜歯が行われ、妊娠経験があったことが明らかにされています。年代は縄文時代晩期末から弥生時代前期と推定されています（奈良ほか 2020）。

参考文献

一関市博物館 2019『縄文人のセンス―貝鳥貝塚の出土品―』

岩手県教育委員会 1998『岩手県文化財調査報告書第 102 集　岩手の貝塚』

熊谷常正 2007「岩手県貝鳥貝塚の鳥形土製品」『考古学の深層―瓦吹堅先生還暦記念論文集―』

奈良貴史・萩原康雄・米田穣・安達登・鈴木弘太 2020「貝鳥貝塚出土の縄文人骨の科学分析」『一関市博物館研究報告』第 23 号　一関市博物館

松島義章 2012『貝が語る縄文海進―南関東、＋2℃の世界　増補版―』有隣堂

＊本稿は、立正大学博物館報『万吉だより』28 号に掲載したものを著者の許可を得て再掲させていただきました。

## 8．所蔵資料の整理

### （1）写真資料のデジタルデータ化

吉田コレクションスライド資料 3,608 点をデジタルデータ化した。（委託）

### （2）所蔵資料の修復

縄文土器 1 点（称名寺貝塚：吉田コレクション）の修復を実施した。（委託）

## 9．寄贈・寄託資料

平成 27 年度から令和元年度に当館に寄贈・寄託された資料は下記のとおりである。

### （1）仙場右羊コレクション　中国考古資料

・寄贈資料：瓦　150 点、塼　5 点
土器　22 点、墓誌　1 組
青銅器　7 点、鋳型　1 点
参考文献 2 冊

＊詳細は、館蔵資料「基礎文献」叢刊　第 8 輯『仙場右羊コレクション　中国考古資料図録』による。

・受領年月日：平成 27 年 12 月

・寄贈者：仙場右羊氏（本名：仙場幸男氏・神奈川県鎌倉市）

仙場右羊コレクション　中国古代瓦

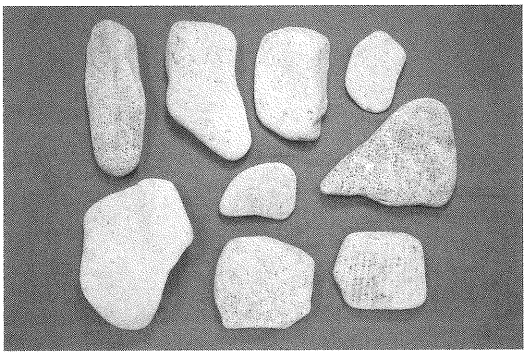
### （2）熊野家墓所礫石経

・寄贈資料：多字一石経　29 点（うち 1 点寄託）
10 ～ 20 ㎝の扁平な川原石に全面を埋め尽くすように無量寿経が書写されている。

＊詳細は第 13 回企画展図録『礫石経』による。

・受領年月日：平成 29 年 7 月 20 日

・寄贈者：熊野譲氏（山口県防府市）



熊野家墓所　礫石経

### （3）高橋家日蓮宗関係庶民資料

・寄贈資料：木造　一塔両尊像　1 塔 2 躯
木造　厨子　1 基
木造　日蓮上人坐像　1 躯
経典・妙法蓮華経　巻子　1 巻

・寄託資料：紙本木版摺り　帝釈天像　1 幅

・受領年月日：令和 2 年 3 月 9 日
（立博第 2019 - 30 - 2 号）

・寄贈者：高橋弥太郎氏（東京都台東区）

※資料調査では、仏教学部寺尾英智教授にご指導いただいた。

木造　一塔両尊像　木造　厨子

## Ⅲ．受贈図書目録

（2019 年 4 月～ 2020 年 3 月）

〈青森県〉

**青森市教育委員会**

・国史跡高屋敷館遺跡　環境整備報告書Ⅲ

・市内遺跡発掘調査報告書 27

・市内遺跡発掘調査報告書 28

**八戸市教育委員会**

・新井田古館遺跡第 31 地点

・櫛引遺跡第 6 地点

・雷遺跡第 4 地点

**八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館**

・令和元年度特別展図録　北の縄文世界　－北海道・北東北の縄文遺跡群－

・年報　第 8 号　－平成 30 年度－

・令和元年度秋季企画展図録「山のいとなみ」

〈福島県〉

**公益財団法人福島県文化振興財団　福島県文化財センター白川館**

・年報～平成 30 年度実績～

〈茨城県〉

**土浦市立博物館**

・土浦市立博物館年報　31 号

・土浦市立博物館紀要　29 号

・土浦市立博物館年報　32 号

・秋の夜空を彩る花火　－土浦全国花火競技大会の歴史－

〈栃木県〉

**那珂川町なす風土記の丘資料館**

・平成 30 年度　特別展記念シンポジウム報告書　那須のくろがね－集落の開発と鉄生産－

**唐沢考古会**

・唐沢考古　第 38 号

**大田原市なす風土記の丘湯津上資料館**

・那須の古代窯業　－瓦・須恵器の生産と流通－

**足利市教育委員会**

・史跡足利学校跡保存活用計画書

〈群馬県〉

**吉岡町教育委員会**

・七日市Ⅲ遺跡

**高崎市観音塚考古資料館**

・第 31 回企画展　群馬に古墳が造られ始めたころ

**かみつけの里博物館**

・第 27 回特別展　太子塚古墳を考える

**安中市学習の森ふるさと学習館**

・関口コオ　いつかきた路

〈埼玉県〉

**野外調査研究会・吉川國男**

・高尾のプラム－ドロッケ慣行の余香

・栗原文藏さんの研究と「さきたま風土記の丘」

・条里制の全体像と遺跡の見つけ方

・江川流域の自然・文化資源の調査、保存、活用について

・特集－寒天製造の文化と現状－　野外調査研究　第 3 号（通巻第 28 号）122-154　抜刷

・調査概報　茅野市宮川の寒天づくりについて（一）

**川越市立博物館**

・第 46 回企画展　三王塚古墳　上円下方墳の謎に迫る

・川越市立博物館紀要　第 1 号

・北武蔵剣術物語

**日本工業大学工業博物館**

・工業技術博物館ニュース　No. 101

・工業技術博物館ニュース　No. 102

・工業技術博物館ニュース　No. 103

**鉄道博物館**

・企画展　鉄道マンの仕事アルバム　鉄博フォトアーカイブ展

・企画展　走るレストラン　食堂車の物語

**鶴ヶ島市教育委員会**

・埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ

・埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ

・鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書Ⅻ

**鶴ヶ島市遺跡調査会**

・鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告第 84 集

**富士見市立難波田城資料館**

・平成史 in 富士見

**入間市博物館**

・入間市博物館紀要　第 13 号

**熊谷市立熊谷図書館**

・新編　熊谷の昔ばなし

**上里町教育委員会**

・中原館址・寺西Ⅰ遺跡　発掘調査報告書

・堂裏遺跡発掘調査報告書

・北稲塚遺跡発掘調査報告書

**上里町立郷土博物館**

・研究紀要　第 16 号

・研究紀要　第 17 号

**春日部市郷土資料館**

・成金　鈴木久五郎

**さいたま文学館**

・絵本作家　飯野和好　おっと、とうげのなかまたちでい！

**草加市立歴史民俗資料館**

・「おくのほそ道」から草加松原へ

・草加市制 60 周年記念　秋季企画展　日光道中草加宿と参勤交代

・令和元年度夏季企画展図録　鉄道がやってきた！　－明治の草加を変えた軌道と鉄路－

・平成 30 年度　草加市立歴史民俗資料館　年報

・日光道中草加宿と参勤交代－一関藩（田村家）を中心として

**埼玉県立歴史と民俗の博物館**

・巡り・廻りの民俗行事調査概報Ⅲ

・紀要　第 13 号

・特別展　子ども / おもちゃの博覧会　展示会図録

・企画展　埼玉の官衙

・文化遺産活用調査事業

**埼玉県立自然の博物館**

・関東山地カモシカ保護地域　特別調査報告書

・埼玉県立自然の博物館自然遺産調査Ⅰ　石灰岩地基礎調査報告書

・埼玉の自然誌

**さいたま市立博物館**

・さいたま市立博物館　調査レポート

・平成 30 年度　さいたま市立博物館年報

**岩槻人形博物館**

・さいたま市　岩槻人形博物館コレクション名品選

・さいたま市　岩槻人形博物館　ガイドブック

**春日部市教育委員会**

・貝の内遺跡 28 次地点　馬場遺跡 6 次地点

**城西大学水田美術館**

・坂戸市所蔵美術品展　現代版画の世界

**埼玉県立さきたま史跡の博物館**

・令和元年度企画展　徹底解剖！埼玉古墳群

**サトエ記念 21 世紀美術館**

・小松崎邦雄展　～麗しき日本の絵画を求めて～

**久喜市立郷土資料館**

・合併 10 周年記念特別展　久喜市の大絵馬

**埼玉県立川の博物館**

・令和元年度特別展　根・子・ねずみ　～ネズミワールドへようこそ～

**ふじみ野市立大井郷土資料館**

・ふじみ野 150 年～明治から平成まで～

**宮代町郷土資料館**

・令和元年度特別展　みやしろの消防

**朝霞市博物館**

・朝霞から見る古墳の出現

**行田市郷土博物館**

・行田市郷土博物館報　第20号

・市制施行70周年記念　第29回テーマ展　わたしのまちのたからもの～行田市の文化財展～

・行田の足袋　製造用具及び製品

**飯能市立博物館**

・開館30年記念特別展　飯能の名宝

**北本市教育委員会**

・北本市埋蔵文化財調査報告書　デーノタメ遺跡

・デーノタメ遺跡の世界

**川口市立科学館**

・年報　平成30年度

**埼玉平和資料館**

・描かれた戦争　－絵に託した思い－

**幸手市郷土資料館**

・図録　貝が語る幸手の海

**滑川町教育委員会**

・花気窯跡

〈千葉県〉

**千葉県立関宿城博物館**

・研究報告　第23号

・研究報告　第24号

**市川市立市川考古博物館**

・館報　第46号

・大地からのメッセージ　－外かん自動車道の発掘成果－

**袖ヶ浦市郷土博物館**

・令和元年度企画展Ⅱ　幕末維新の西上総　おらがの慶応4年

**加曾利貝塚土器づくり同好会**

・加曾利貝塚での縄文土器実験考古学　続・縄文土器をつくる

〈東京都〉

**國學院大学博物館**

・研究報告　第35輯

・研究報告　第36輯

**公益財団法人朝日新聞財団法人**

・朝日新聞文化財団の文化財保護活動助成 Vol.1 2009-2018

**日本博物館協会**

・博物館研究　Vol.54　No.4　通巻610号

・博物館研究　Vol.54　No.5　通巻611号

・博物館研究　Vol.54　No.6　通巻612号

・博物館研究　Vol.54　No.7　通巻613号

・博物館研究　Vol.54　No.8　通巻614号

・博物館研究　Vol.54　No.9　通巻615号

・博物館研究　Vol.54　No.10　通巻616号

・博物館研究　Vol.54　No.11　通巻617号

・博物館研究　Vol.54　No.12　通巻618号

・博物館研究　Vol.55　No.1　通巻619号

・博物館研究　Vol.55　No.2　通巻620号

・博物館研究　Vol.55　No.3　通巻621号

・2011平成の大津波と博物館　被災資料再生の歩み

**立正大学博物館学芸員課程**

・立正大学博物館学芸員課程年報

**公益財団法人　渋沢栄一記念財団**

・青淵　第843号

・青淵　第844号

・青淵　第845号

・青淵　第846号

・青淵　第847号

・青淵　第848号

・青淵　第849号

・青淵　第850号

・青淵　第851号

**大田区教育委員会**

・山王横穴墓群Ⅱ　発掘調査報告

・南久が原2丁目4番横穴墓Ⅰ　久が原遺跡Ⅵ　発掘調査報告

**立正大学経営学会**

・立正経営論集　第51巻　第1号

・立正経営論集　第51巻　第2号

**日本文化財保護協会**

・観光と考古学

**杉並区立郷土博物館**

・平成30年度企画展　すぎなみの地域史Ⅱ　高井戸

**実践女子大学香雪記念資料館**

・実践女子大学香雪記念資料館館報　第16号

・実践女子大学香雪記念資料館館報　第17号

**独立行政法人　国立科学博物館**

・milsil　第12巻第4号（通巻70号）

・milsil　第12巻第5号（通巻71号）

・milsil　第12巻第6号（通巻72号）

・milsil　第13巻第1号（通巻73号）

・milsil　第13巻第2号（通巻74号）

**清瀬市郷土博物館**

・柳ケ瀬川縄文ロマン

**玉川大学教育博物館**

・館報　2018年度　第17号

**立教学院展示館**

・『新しい大学』の誕生　－今日の大学の原点をさぐる－

**立正大学研究推進・地域連携センター**

・鎌倉・ネパール研究紀要

**板橋区立郷土資料館**

・常設展示図録

**女子美術大学**

・女子美術大学広報誌

**公益財団法人　渋沢栄一記念財団　渋沢資料館**

・渋沢研究　第32号

**三鷹市教育委員会**

・市立第五中学校遺跡 ： 東京都三鷹市新川市立第五中学校遺跡発掘調査報告書

**国分寺市教育委員会**

・国分寺市の文化財（令和元年度版）

**台東区立中央図書館**

・郷土・資料調査室報　第10号

**大田区立郷土博物館**

・紀要　第23号

〈神奈川県〉

**赤星直忠博士文化財資料館**

・赤星直忠博士文化財資料館だより第16号

**女子美術大学美術館**

・年報　第16号

・『女子美術大学美術館コレクション　作品と授業をつなぐ試み』報告書

**大磯町郷土資料館**

・年報　－平成30年度－

・吉田茂　写真集　－大磯で暮らした日々－

・秋季企画展図録　鳴立庵

・資料館資料18

・大磯町郷土資料館だより

**三浦市教育委員会**

・市内遺跡発掘調査

〈山梨県〉

**山梨県立考古博物館**

・第37回特別展　縄文文化の頂点

〈新潟県〉

**新潟県立博物館**

・更新世末期のアムール川下流域における環境変動と人類行動

・オシノヴァヤレーチカ10遺跡（2015年）発掘調査報告書　Vol.4

**長岡市立科学博物館**

・NKH（長岡市立科学博物館館報）No.103

〈長野県〉

**長野県埋蔵文化財センター**

・川原遺跡　下川原遺跡

・山鳥場遺跡・三ヶ組遺跡

・佐久市　小山の神B遺跡　高尾A遺跡　高尾古墳群5号墳　尾垂遺跡　尾垂古墳　洞源遺跡　荒城跡　月明沢岩陰遺跡群

・中野市　柳沢遺跡

・佐久市　滝の沢遺跡　寺久保遺跡　庚申塚

台が坂遺跡　上滝・中滝・下滝遺跡　和田遺跡　和田1号塚　滝遺跡　家浦遺跡　田島塚　水堀塚

・長野県埋蔵文化財センター 121

・長野県埋蔵文化財センター 125

・長野県埋蔵文化財センター 127

**明治大学黒曜石研究センター**

・資源環境と人類　第9号

・資源環境と人類　第10号

〈京都府〉

**同志社大学歴史資料館**

・同志社大学歴史資料館　館報　第21号

・同志社大学歴史資料館　館報　第22号

〈大阪府〉

**茨木市立文化財資料館**

・上皇をささえた村々−摂津国下郡の仙洞料−

〈兵庫県〉

**関西学院大学博物館**

・関西学院の130年　1889-2019

〈鳥取県〉

**伊藤康晴**

・鳥取地域史研究　「一千ケ寺止宿帳」にみる千箇寺詣について

〈福岡県〉

**西南学院大学博物館**

・西南学院大学博物館　年報　第10号

・西南学院大学博物館　紀要　第7号

・西南学院大学博物館研究叢書

**九州産業大学美術館**

・平成30年度文化庁　「大学における文化芸術推進事業」実施報告書

・令和元年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」実施報告書

**筑紫野市教育委員会**

・太宰府条房跡　第312次発掘調査

〈熊本県〉

**熊本大学五高記念館**

・熊本大学五高記念館叢書　第三集

・熊本大学五高記念館叢書　第四集


立正大学博物館年報 18

（平成31・令和元〈2019〉年度）

令和2（2020）年6月29日　発行

編集・発行　　立正大学博物館



〒360-0194　　埼玉県熊谷市万吉1700

TEL. 048 - 536 - 6150　FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL　http://www.ris.ac.jp/museum/



印刷・製本；望月印刷株式会社